

第4回小美玉市教育振興基本計画審議会 議事要旨

日時：令和4年11月16日（月）13:30～

場所：小川総合支所 3階大会議室

〔出席者〕

元木理寿会長 荒川一秀 大平勇次

鶴町和夫 小田和広 福田和範 本田理

〔書面提出〕6名

〔事務局 教育委員会〕

滑川教育部長

比気教育企画課長 植田課長補佐

笹目主任

〔コンサルタント ECO〕 庄司

1. 開 会

教育企画課長

皆様こんにちは、本日はお忙しい中ご出席を賜りまして誠にありがとうございます。本日進行を務めさせていただきます、小美玉市教育企画課長の比気と申します。よろしく願い致します。

本日の審議会は第4回となりますが、本年8月に予定しておりました前回の審議会は、新型コロナウイルス感染症の濃厚接触者に該当するなどの理由により、出席委員が過半数を超えない見込みとなったため、書面により開催をさせていただきます。委員の皆様がお集まりの上、会議を開催するのは本日が初めてとなります。お手元にも名簿の方お配りしてございますので、お目通しをいただければと思います。

なお、本日の会議には事務局以外に、本計画の策定支援を委託している株式会社都市環境計画研究所より、ご出席をいただいております。

それでは次第に沿って会議の方進めて参ります。はじめに元木会長よりご挨拶をお願いいたします。

2. あいさつ

元木会長

はじめまして元木でございます。着座にて進めさせていただきます。

皆様お忙しい中ご参集頂き誠にありがとうございます。ここ1・2ヶ月を振り返りますと、10月でも夏のような日が続いたり、全国各地では様々な災害が発生したりと、不安定な状況が続いておりました。季節も変わり、最近ようやく落ち着いた日が戻ってきたと感じております。

一方、収束して行くのではないかと見られていた「新型コロナウイルス」ですが、最近また感染者数が増えており、改めて気を引き締めながらの生活になっているように思います。

	<p>先ほど事務局の方からも話がありましたが、新型コロナウイルスの影響により、審議会を運営していくにあたり、なかなか皆様にお集まりいただけない状況が続いております。今回も事務局と協議し、審議会運営の取扱いについて、一部変更をさせていただく方向で、委員の皆様には、事務局より通知があったと思います。</p> <p>本審議会は13名の委員で構成されており、その過半数の出席が無いと会議を開催することができない。と規定されておりますが、新型コロナウイルスへの感染などにより、出席が困難である場合、書面の提出をもって出席扱いとする。という形で、皆様にお諮りさせていただき、ご承認をいただきました。この場を借りて御礼申し上げます。</p> <p>さて、答申までは、本会議を含め、あと2回となりました。短い期間ではありますが、本計画が、より良い計画となりますよう、忌憚のないご意見を賜ればと思いますので、よろしくお願いいたします。</p> <p>それでは長くなりましたが、私からのご挨拶とさせていただきます。本日はどうぞよろしくお願いいたします。</p>
教育企画課長	<p>ありがとうございました。会長のご挨拶にもありましたように、今回から会議運営の取扱いを一部変更させていただき、欠席委員につきましては書面の提出をもって出席扱いとさせていただくことで、ご了承をいただいております。</p> <p>本日の欠席者が6名、うち書面提出者6名、本日お集まりの委員数7名と合わせますと、委員の過半数を超えているため、市教育振興基本計画審議会条例第6条第3項の規定に基づき、本会議が成立することを報告させていただきます。</p> <p>それでは、早速ではございますが、議事に移らせていただきます。これより議事の進行につきましては、元木会長にお願いいたします。よろしくお願いいたします。</p>

3. 議 題

(1) 小美玉市教育振興基本計画 後期基本計画（素案）について

元木会長	<p>お手元の次第に沿って進行いたします。事務局から説明をお願いいたします。</p> <p style="text-align: center;">《事務局による説明》</p>
元木会長	<p>ありがとうございました。</p> <p>皆様のお手元にあります計画の素案についてですが、まず本計画書について、皆様からご意見やご質問、お気づきの点がございましたら、ご発言ください。</p>
大平委員	<p>1つ指摘しておきたい点があります。</p> <p>79 ページに、「茨城教育センター」とありますが、おそらく、「教育研修センター」ではないかと思えます。</p> <p>「教育センター」という施設も実際にありますが、ここは、教員の研修に関する取組の記述だと思えますので、「教育研修センター」が適切だと思えます。</p>

事務局	ありがとうございます、訂正させていただきます。
元木会長	他に気になるところがありましたら、ご意見をいただきたいと思います。
小田委員	<p>感想になりますが、素案 55 ページの、基本方向 1 で「ICT 環境整備」について、計画に位置付けられており、良かったと感じました。</p> <p>何故かと申しますと、子どもが学校に通っていますが、最初はきちんと使っていました。しかし、学校の授業などで使用しているためか、文字などを打つのがすごく速くなってきたと感じました。</p> <p>私自身パソコンなどは苦手ですが、子どもの成長過程を見ると、やはり将来につながっていくと思いますので、この ICT に関する施策の位置付けは大変有意義であると思いました。以上です。</p>
元木会長	ありがとうございます。これらの背景について事務局から何かありますでしょうか。
事務局	<p>ありがとうございます、</p> <p>子どもたちの学習環境で ICT が整備されたという事ですが、今後の課題としたしましては、教える側・使わせる側である教職員の研修の機会をより充実させて、子ども達に格差が生じないよう取り組む必要があると考えております。</p>
大平委員	<p>今の感想に関連して、今回の素案は ICT や SDGs などに関する記載があり、大変良かったと思います。</p> <p>ただ、10 歳になる小学生が、社会に出て活躍するのが 10 年から 15 年先の話で、もっと小さい子、低学年の子どもになると、20 年先の話になります。</p> <p>2035 年には、「AI シンギュラリティ（技術的特異点）」という、AI が発達して、人間を追い越す日が来るということが言われておりますが、AI が更に発達するということは見据えなければならないと考えます。十数年先のことから、計画に盛り込む必要はないと思いますが、このことは見据えておかななくてはいけないだろうと思います。</p> <p>教育研修も結局のところ、ICT だけではダメだと思いますので、今の先生方をお願いしたいのは、AI というものを見据えた形で、先生方の教育哲学をきちんと持っていたかかないといけないと思います。以上です。</p>
元木会長	ありがとうございます。
本田委員	<p>来年の 4 月から茨城県は、「IT 未来高校」という、旧友部高校校舎を活用した学校が開校しますが、その校長になる方とお話しをする機会があり、IT 関連に特化した高校は、全国で 12 校しかない、県知事肝いりの施策の 1 つで、将来的に AI に長けた人を養成しようという意図で始まるそうです。</p> <p>それが、友部に開校するという事で、話を聞いてみたら、県全域から生徒を募集すると言っても、寮があるわけではないので、寮の整備などの課題が考えられるそうです。しかし、今後の教育において、このような分野は重要であることは明白ですので、小美玉市として、茨城県からの通達を待つのではなく、積極的なアクションを起こすべきではないかということを感じました。</p>

元木会長	<p>今 ICT に関しての意見がありました。他にご意見はございますか。</p> <p>先程本田委員からご意見がありましたが、全国的に ICT 環境の整備が叫ばれながらも、最近ハード面は環境が整ってきているのではないかと感じております。また、素案にも、タブレット等の活用も含めて位置付けがされていますので、今後はソフト面も合わせて推進して欲しいと思います。</p> <p>推進していく上で重要なのは、教職員だけでなくご家庭も含めて、ICT を取り扱う際の『大人のリテラシー』をどう向上させるか」が重要になってくると考えます。</p> <p>小中学生とは異なりますが、最近の大学の現場では、学生によるパソコンまたタブレットの扱いは格段に上昇しています。しかし、そのデータや情報の取り扱いについては、丁寧に説明する必要があると感じています。一方、小中高の現場でも ICT の環境が整う中で、今後いかに ICT リテラシーを高めていくことが必要になってくると考えますので、教育に携わる皆様、また教育委員会の皆様におかれましても、念頭においてほしいと思います。</p> <p>ICT の活用は、「郷土教育」や「環境教育」にも繋がります。「郷土教育」「環境教育」の見直しにおいても、WEB 上あるいはデジタルコンテンツをどう扱うのか、今後検討が必要です。</p> <p>話しは少し変わりますが、ICT の活用という点では、これまでの市町村の市史や社会科の副読本をはじめとして学校現場で積み上げてきた紙媒体の資料について、資料のデジタル化をお願いしたいと考えています。将来を見据える上でも、過去との連続性を示していくことも小美玉市の発展に繋がっていくと思います。</p> <p>基本方針 1 において、他にはいかがでしょうか。</p>
荒川委員	<p>今先生方から、ICT や AI などの話が出ましたが、これらは経済にも関係してくるので、大事なことだと思います。</p> <p>この素案は、5 年間の計画であって、これから少子高齢化で、それに対する対応として、どのような教育をするのか。</p> <p>また、茨城県の医療制度関係は、全国でも下から 2 番目くらいと低かったと思います。それで、以前美野里中学校では、ホームヘルパー 3 級を取得することに取り組んでいたと思いますが、これからは、介護ヘルパーなど福祉関係の職業に外国人を雇用しケアするのか、それとも、自分たち同一民族でケアしていくのか、計画ではどうなっているか。</p>
元木会長	<p>ありがとうございます、この件に関して事務局からお願いします。</p>
事務局	<p>委員ご質問の件については、資料 62 ページをご覧くださいと思います。</p> <p>「社会参画力の育成」の主な取組のとして、ボランティア活動の充実や地域のボランティア活動への参加の促進を位置付けており、「地域のボランティア活動への参加の促進」において、社会福祉協議会の子どもヘルパー派遣事業が位置付けております。ただ、ここ 1・2 年は、コロナ禍のため実際の活動はして</p>

	<p>おりませんが、コロナが沈静化した際には、この取り組みを進めていくということによって位置付けています。</p>
大平委員	<p>日本の少子高齢化は避けられず、これからさらに少子高齢化は進み、外国の方に手伝っていただく必要が出てくると考えられ、そのためには、コミュニケーションができなければならないと思います。</p> <p>そうした時に 56 ページにあるように、「グローバル社会に対応できる教育の推進」は、絶対に必要だと思います。これからの若者、特に今の小・中学生は、グローバル社会にうまく対応しなければならないと思います。</p> <p>過去に日本は、情報化や国際化を基本に掲げた教育改革を実施しましたが、その際、情報化については一定の成果はあったと思いますが、グローバル化、いわゆる国際化というのは、失敗したと私自身、感じているところです。</p> <p>グローバル化に失敗したと考える理由はいくつかありますが、これからの時代で教育は、改めてグローバル化に力を入れなければならないと思います。</p> <p>案ずるより産むが易しで、今現在、多くの外国の方が日本に住み、この小美玉市に住んでいると思います。それに伴って、地域の小中学校には少なからず、外国の児童生徒がいる状況で、これは、我々が現職であった時にはあまり例が無かった状況ですから、これからの教育は、グローバル化により一層力を入れるべきだと思います。</p> <p>少子高齢化については、政治が解決すべき問題だと思いますので、対処をしていただき、教育では、これからも増加が予想される外国の方に対する、人種差別などが起きないように取り組んでいただきたいと思います。</p>
元木会長	<p>ありがとうございました。</p>
福田委員	<p>同じく、56 ページの基本施策 3 「グローバル社会に対応できる教育の推進」について、「中 3 時における CEFR A 1（英検 3 級等）以上相当の英語力」を指標としているようですが、基本的には英語ということなのではないでしょうか。私としては、なぜ英語だけなのかという印象を持ちました。</p> <p>というのも、小美玉市は、英語ではない、違う言語が使われている方が多い印象がありますので、地域に多い言語を学習する方が良いのではないかと思います。ただ、英語は世界共通語なので教育には必要だと思いますが、それ以外の言語も少し取り入れていくのもいいのかなと思います。</p>
事務局	<p>学習内容に関することですので、明確な回答は出来かねますが、令和 2 年度に学習指導要領が改定されて、小学生は外国語を教えることになり、本市では英語教育を行っております。</p> <p>他言語の教育を行っていないのは、授業実数の確保や教員など教える側の人材確保など、限られた時間や労力の中で、教育を行う必要があるため、世界共通語である、英語に注力するためだと思います。</p>
大平委員	<p>おそらく、大学を卒業しても英語でコミュニケーションを取れないのは日本くらいだと思います。東南アジアの大学、もちろん大学を出ていなくても、英</p>

	<p>語でコミュニケーションが取れる。これは、これまで日本が置かれていた立場が関係していると様々な書籍にありました。</p> <p>つまり、植民地となった歴史があるかどうか。ベトナムはフランスの植民地となったため、フランス語が話せる。インドはイギリスの植民地だったため、英語が話せる。このような時代背景がある。</p> <p>ですから、見方を変えれば、日本は恵まれていたと言えると思います。植民地にならなかったということがあるし、尚且つ、明治時代の先輩たちが、様々な外国語を日本語に訳してくれた。そのおかげで、日本人は、海外へ行かずとも、英語を勉強せずとも、教科書を読むだけで、難しい勉強ができる環境だった。</p> <p>しかし、そうは言っても、コミュニケーションが取れないことは、あまりよろしくない訳で、これがグローバル化の失敗した一つの要因だと思います。だから、英検などの座学的な英語教育に拘っているのだと思います。それよりも、子どもたちが英語を使わなければならない環境に置くこと、例えば、英語圏への留学が、一番効率的であると思います。</p> <p>だから、今現在、教育現場では、ALT を活用した授業をしていて、少しは役に立っていると思いますが、根本的には役に立たないと思っています。ただ、そういう人たちとのコミュニケーションを通じて、子どもたちは自然と話せるようになる可能性もあると思いますが、日本の中での英語にあまり拘る必要は無いと思います。</p> <p>結局のところ、一番手っ取り早いのは、外国に留学させることだと思います。以上です。</p>
元木会長	<p>ありがとうございます。</p> <p>これに関しましては、委員の皆様から多くのご意見を頂戴しています。今日の生活環境、グローバル社会の変化の中においては、外国語教育、英語のみであることは限界を感じております。今後、外国語学習を推進していくにあたり、英語教育の推進を軸にしながらもグローバルな人材の育成について改めて課題としたいと考えます。</p> <p>また、先ほど、「なぜ英語以外の外国語をやらないのか」とのご意見ありましたが、中国、タイ、ベトナム語を母国語とされている方々が増える中で、それらの言葉に対応できるような人材の確保、発掘についても課題にしていかななくてはなりません。教育委員会をはじめとして人材の導入、経験者の現場への接続などもお願いできればと思います。</p> <p>最近のニュースなどでは、外国の方に頼るというような話がある一方で、外国人の方々は、すでに日本には向いていないというような情報も入りつつあります。出席いただいております皆様だけではなく、我々も短期・中期・長期と期間を設定し、グローバル人材を育てていくのかということについては早急に考えていかなければならないのではないかと考えております。</p>

	<p>グローバル社会の実現に向けて、やはり皆様の関心事の一つでもありますので、今一度、整えていきたいと考えております。非常に多くの問題があるとは思いますが、他にご意見はございますでしょうか。</p>
大平委員	<p>SDGs について記載がありますが、少子高齢化についても解決すべき課題の一つであると思います。他にも課題は山積していると思いますが、私が懸念しているのは、食料やエネルギー、産業についてです。</p> <p>まず、食料についてですが、現在カロリーベースでの食料自給率は40%から下がって36%。つまり例え話で、戦争が始まったら食べ物は4割くらいしか確保ができず、食べられなくなってしまう訳です。そのため、日本では食料自給率を上げようと試みていて、茨城県は、農業が盛んであることから、熱心に取り組んでいる訳です。しかし一方で、エネルギーに関しては、石油や石炭などは全くないので、原子力に頼るしかない。</p> <p>ただ、一番の問題は、この実態を子どもたちは勉強していない、勉強していないから危機感がない。ということだと思います。我々もそうですが、このような危機感を持たなければいけないと思います。</p> <p>次に、産業ですが、やはり第一次産業は非常に重要であると思います。農業や林業、漁業など、SDGs について、取り上げているのであれば、5年や10年でもういかなる問題ではないので、それを突き詰めて、子どもたちに理解してもらい、それで子どもたちに考えてもらうしかないと思います。</p> <p>第一次産業をどうするのか、日本は資源のない国ですから、外国から資源を買って、モノを作る、第二次産業でお金を儲けるしかない、私は叩き込まれてきました。正しいかどうかは分かりませんが、今の時代は指導者が観光立国を掲げ、その政策を、ここ30年ほど行ってきました。ただ、観光立国で、世界で立派になった国というのは絶対無いです。ですから、もう一度、第一次産業をしっかり見つめるということを基本に、子どもたちにはやってもらわなければならないと思います。</p> <p>私がAIについて言及したのは、これからの社会には、絶対にAIが必要となるからです。今日本ではAIの技術者をインターネットや大学などで教育しようと様々な試みがなされていると思います。</p> <p>ただ、AIの重要性に、小学生や中学生、遅くとも高校生には気がついてもらわなければならないと考えています。</p> <p>この計画に書ける状況ではないですが、根本的なところを据えておいた方がいいと思います。</p>
元木会長	<p>ありがとうございます。</p> <p>非常に重要なお意見をいただきました。他にいかがでしょうか。</p>
本田委員	<p>6年間東南アジアのタイに住んでいた、息子が帰国しました。もともと英語ができて、現地に住んだことで、タイ語もマスターしました。</p> <p>㊦孫の病気のため帰国したのですが、非常に重い病気のため、とてもではな</p>

	<p>いが、息子家族の事情で、小美玉市には、とてもではないが暮らせないと行って、今は守谷市に住んでいます。守谷市は、子どもを持つ家庭に対してケアが非常に手厚いそうです。⑨県内の病院で、一番設備等が整っているのが筑波大の病院ですが。そこまで遠くないということで、守谷市に住んでいます。</p> <p>私が言いたいのは、小美玉市が教育に一生懸命取り組んだとしても、将来、子どもたちが市外に出て、戻ってこないことには、市の発展が望めない。そういう基本的なところを考えていかないとダメだということです。</p> <p>英語について、今の学校教育というのは、私の印象としては、英語を喋るための教育ではなく、文法を勉強して試験に合格するための勉強だと思います。喋ることができない英語教育、これは文科省が決めてやっていることですから仕方がないと思います。</p> <p>一方で、コミュニケーションが取れるような英語教育というのは、学校教育の中でプラスアルファのこと、例えば、ホームルーム等を利用すべきと考えます。やはり、話すことを躊躇するのが一番ダメだと思うので、そういう何気ないところで気軽に話しかけられるというような子どもを育てていくことが1番大切だと思います。気軽に声をかけられるようにしてあげるのが、我々大人の役目ではないかと思います。</p> <p>小美玉市の学校で、教育を受けられて良かった、ここで育ってよかった、と感じてもらうこと。そして、小美玉市に戻ってきてもらって生活してもらうということを考えてもらえればと思います。そのためには当然、病院や学校、福祉関係施設の充実が重要で、これらが充実すれば、小美玉市は、高齢者の数が増えていても。子どもの数も減っていません。というような自治体になることに繋がり、将来の展望としては、明るいと思います。</p>
荒川委員	<p>今の委員の話は全くその通りだと思います。行政も I ターン・U ターンの政策でいろいろ空き家条例とかもありますよね、ただ、最終的には教育が原点だから、この計画が原点として、全てが回っていくと思っています。</p> <p>昔、農業から工業への転換の話を受けたことを今でも覚えています。そのような経緯であって、日本という国は豊かになったと思います。</p> <p>ただ近年は、アメリカの援助を受けながら、守られながら生活をしているようなもので、政治的にも、経済的にも。だから、今度は平和ボケですよ。</p> <p>今、ウクライナとロシアの件で、アメリカはウクライナを支援していますが、もしも、日本がウクライナのような状況になったとしても、援助はしてくれると思いますが、アメリカの若い軍人は日本を守ってはくれない。</p> <p>日本の資源は水だけで、今までは、知恵を絞ってここまで発展してきたということをしかりと教えていくような方針を作らなければならない。そうでもしなければ、日本は沈没すると私は思います。</p> <p>それと、英語の話がありました。今、世界は、アメリカと中国ですから、中国語も大切なのかなと思います。隣国で遠い国になってしまった。これは政治的</p>

	<p>なものもありますが、このことで計画に組み入れられる部分があれば、組み入れて子どもたちに教育しなければならないと思います。そうでもしなければ、日本は植民地になってしまいます。以上です。</p>
元木会長	<p>ありがとうございます。今回3人の委員の皆様から貴重なご意見をいただきました。</p> <p>基本方向1の中には、道徳・人権教育などもありますように、多様性の観点からも、さまざまな意見を聞きながら、地域を良くしていくことが、小美玉市の将来につながっていくのではないかなと考えております。この中には、多くの諸先輩方の声の積み上げもより大切になってくると考えています。</p> <p>また、学校における健康、あるいはそれに伴う教育部分については、学校だけでは解決できない問題でもあります。医師不足や医療体制の課題についても小美玉市だけでなく周辺市町村とも連携も課題です。</p> <p>皆様からのご意見は、教育の現場を超えて本質的なご意見ですので、今後、事務局と話し合います、この方針をより良くしていければと考えております。他にいかがでしょうか。</p>
元木会長	<p>では、私から。73 ページを開いていただけますでしょうか。</p> <p>地域と一体となった教育において推進される課題の一つとして「コミュニティスクール」があげられます。昨年度、私のゼミ生の中でも卒業論文のテーマとした学生がいました。</p> <p>現段階では、学校現場の地域とのつながりと言いましても、実際、先生方の地域とのつながりはあったとしても、先生方の異動によって人材情報の共有は積み上がりにくい話だったように思います。教育現場の環境もかつてとは大きく変わる中で、個人情報保護の課題はあるにせよ、地域の人材に関してはデータベース化していくことも今後検討する必要はあると考えています。</p> <p>私の方からもご意見させていただきましたが、委員の皆様からはいかがでしょうか。それでは全体を見渡してご意見がありましたらお願いいたします。</p>
福田委員	<p>質問というか、66 ページの基本政策2の基本方向1 学校教育の充実 において、「地域部活動への転換」について、どのような考えでいらっしゃるのでしょうか。</p>
滑川教育部長	<p>地域部活動への転換については、新聞や文科省の指針の中でも中学校の土日の部活動について、学校教職員の働き方改革等を踏まえて、クラブチーム等地域に移行するといった動きが、今後10年間のうちにという計画であったのですが、直近になって今後3年のうちに、部活動の地域への移行を各自治体で取り組むように。といった方向性が示されました。</p> <p>それに基づいて現在、教育委員会の指導室と本市スポーツ協会やスポーツ少年団の役員等で、どのように進めていけばスムーズに民間やクラブチームに移行できるかということを模索中です。土日の部活が完全に移行できるのかと言うのは、まだ確実に見えてはおりませんが、例えば、美野里中など大きい学校</p>

	をモデル校に指定して、地域移行を先行して実施し、こういった成果や課題が出るかというのを検証しながら、最終的には、本市の学校部活動の地域移行ができるかどうか、また、学校体育が低下しないように充実させるということで、地域部活動への転換に取り組んでいきたいという考えでございます。
本田委員	来年からですか。
滑川教育部長	来年ではないです。令和7年・8年度の実施を予定しております。
本田委員	学校で部活をやらないということですか。
滑川教育部長	まずは、土日の地域移行が打ち出されておりました、土日が浸透していけば平日の部活動も順次移行していくという大きな方針の中で、3年後までには土日の部活動を完全に地域へ移行ということにしています。
大平委員	地域移行についてですが、その予算的な措置については、どのように考えられているのでしょうか。
滑川教育部長	市としての予算措置はしておりません。 理由としては、国において、指導者を雇用することによって生じる、対価的な報酬について、その費用の3分の1ずつを、国と県、市で賄うという、補助的な制度の案を考えている段階だと聞き及んでいるためです。 地域部活動への移行にあたり、活用できるものについては、活用していきたいと考えております。
元木会長	ありがとうございました。他にいかがでしょうか。
大平委員	確か、30年ほど前にも、高校の部活を社会体育に移行できないかという議論がされていたと記憶しております。その中で、1番問題だったのが予算であり、現状として、日本は、社会体育があまり動いてないという課題があると思います。 例えば、海外は町にクラブチームがあり、そのクラブチームがその町の活動を担っている。もちろんこのクラブチームは、民間企業が主体となって資金をやり繰りしながら運営していますが、政府からも補助制度があり、うまく回っている部分があると思います。 このように総合的に考えながら、小学校はどうでも、中高生は一緒になって活動しても良いと思います。海外のようなことができるのが一番理想的ではありますが、ちょっと難しいところだと思います。
元木会長	ありがとうございます。学校教育の現場から地域での部活動への転換について、多くのご意見をいただきました。 これまで学校教育から部活動を切り離すのは簡単ではなかったですが、小中学校を取り巻く環境の変化から体育やスポーツにかかわる部活動のサポート体制については、検討課題の一つとなっています。小美玉市においても、部活動のあり方やサポート体制については、引き続き検討していただければと思います。 話しは変わりますが、本日欠席された委員の皆様からのご意見はありました

	でしょうか。事務局からお願いします。
事務局	事務局の方から報告をさせていただきます。資料をご覧いただければと思います。
	《資料の確認》
元木会長	<p>ありがとうございました。他にご意見はございますでしょうか。</p> <p>さて、そろそろこの辺りでご意見を取りまとめたいと思います。</p> <p>それでは教育振興基本計画後期計画素案でございますが、賛成の委員の皆様は挙手をお願いしたいと思います。ありがとうございました。</p> <p>賛成6名なります。ありがとうございました。</p> <p>それでは、事務局より報告をお願いいたします。</p>
事務局	<p>はい、事務局より報告させていただきます。</p> <p>本日欠席の委員の6名に関しまして、全員賛成ということでいただいておりますので、ご報告させていただきます。</p>
元木会長	<p>ありがとうございます。</p> <p>それでは本日の出席委員と合わせまして、賛成12となりました。</p> <p>これをもちまして議題1、教育振興基本計画後期計画素案について、可決いたします。皆様ありがとうございました。</p> <p>以上で、本日の採決すべき議題は終了しました。ありがとうございました。</p> <p>進行を事務局へお返しいたします。</p> <p>本日は拙い進行役となりましたが、ありがとうございました。</p>

4. その他

(1) 今後のスケジュールについて

比気教育企画課長	<p>はい、ありがとうございました。それでは次第のほうに戻りまして、4のその他でございますが、委員の皆様から何かございますか。</p>
	《事務局よりスケジュール確認》 ※資料2参照
事務局	<p>最後に補足と言いますか、今回の計画案の体系ですけれども、基本方針1から5までございます1から3が教育の分野と言うことで担当より説明させていただきましたが方針4につきましては生涯学習、5についてはスポーツに関するものとなっております。こちらにつきましては、それぞれの審議会の会長が委員としてお越しいただいておりますが、それぞれの審議会で議論いただいたものを、今回こちらの計画に転記している計画となります。</p>

5. 閉会

教育企画課長	<p>長時間にわたり、ありがとうございました。</p> <p>以上で閉会させていただきます。</p>
--------	--